

令和4年漁期の秋田県ハタハタ漁業管理・資源対策について

1. 漁獲実績

(1) 秋田県における漁獲量

表1. 秋田県における漁獲量の推移

		沖合(トン)			沿岸(トン)			計(トン)		
		漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成	7年	85	53	62	85	90	106	170	143	84
	8年	110	86	78	110	158	144	220	244	111
	9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
	10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
	11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
	12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
	13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
	14年	680	384	56	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
	15年	960	906	94	1,440	2,051	142	2,400	2,957	123
	16年	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
	17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
	18年	800	943	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
	19年	720	845	117	1,080	765	71	1,800	1,610	89
	20年	1,200	866	72	1,800	2,035	113	3,000	2,901	97
	21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
	22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
	23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
	24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
	25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
	26年	672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73
	27年	320	438	137	480	686	143	800	1,124	141
	28年	320	450	141	480	395	82	800	845	106
	29年	290	241	83	430	240	56	720	481	67
	30年	320	325	102	480	287	60	800	612	77
令和	元年	325	296	91	325	479	147	650	775	119
	2年	325	252	78	325	191	59	650	443	68
	3年	-	199	-	-	105	-	-	304	-

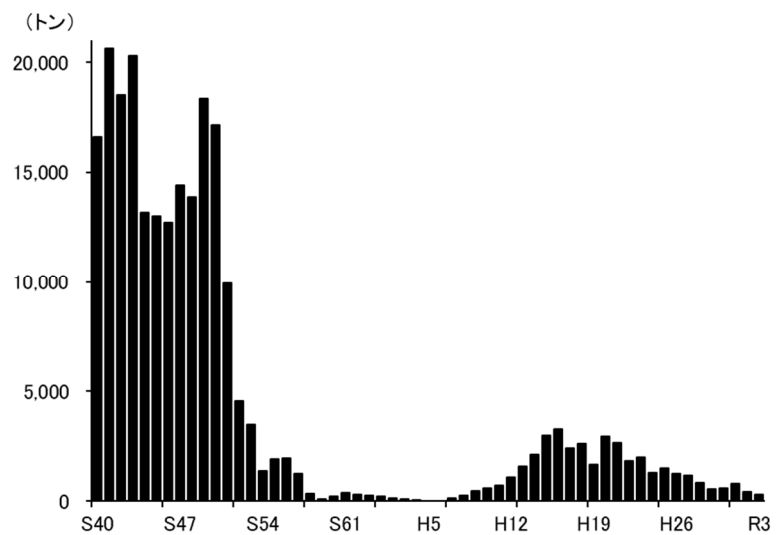
・平成7、8年は、暦年（1～12月）の値（秋田県漁業の動き）。

・平成9年以降は、管理漁期（9～翌6月）の値（秋田県調べ）。

○ 令和3年漁期（9～翌6月）の漁獲量は、沖合199トン、沿岸105トン、計304トンであった。

表 2 (図 1). 秋田県における漁獲量 (1~12 月年計) の推移

単位:トン		
年	漁獲量	
昭和	40年	16,604
	41年	20,607
	42年	18,524
	43年	20,271
	44年	13,186
	45年	13,015
	46年	12,723
	47年	14,400
	48年	13,870
	49年	18,330
	50年	17,157
	51年	9,943
	52年	4,562
	53年	3,481
	54年	1,390
	55年	1,919
	56年	1,938
	57年	1,244
	58年	357
	59年	74
	60年	203
	61年	373
	62年	286
	63年	248
平成	元年	208
	2年	150
	3年	71
	4年	40
	5年	
	6年	
	7年	143
	8年	244
	9年	469
	10年	589
	11年	730
	12年	1,085
	13年	1,569
	14年	2,112
	15年	2,969
	16年	3,258
	17年	2,402
	18年	2,625
	19年	1,653
	20年	2,938
	21年	2,648
	22年	1,832
	23年	1,983
	24年	1,296
	25年	1,509
	26年	1,259
	27年	1,148
	28年	835
	29年	527
	30年	605
令和	元年	783
	2年	406
	3年	313



- ・令和 2 年までは、農林水産統計の値。
- ・令和 3 年は、秋田県水産振興センター調べ。

(2) 日本海北部5県における漁獲量

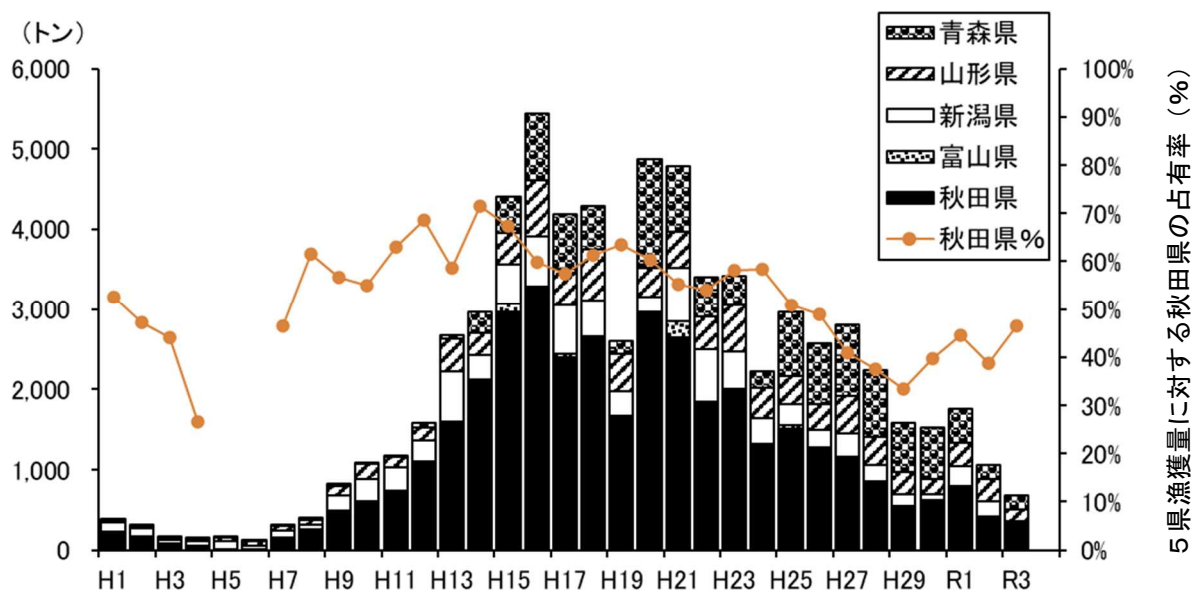


図2. 日本海北部5県における漁獲量(1~12月)の推移

- ・令和2年までは、農林水産統計の値。
- ・令和3年は、各県聞き取りの値。

- 令和3年の合計漁獲量は、673トン(前年比64%)で前年より378トン減少した。
- 県別では、青森県170トン(前年167トン、前年比102%)、山形県138トン(同275トン、50%)、新潟県48トン(同202トン、24%)、富山県3トン(同1トン、300%)、秋田県313トン(同406トン、77%)であった。

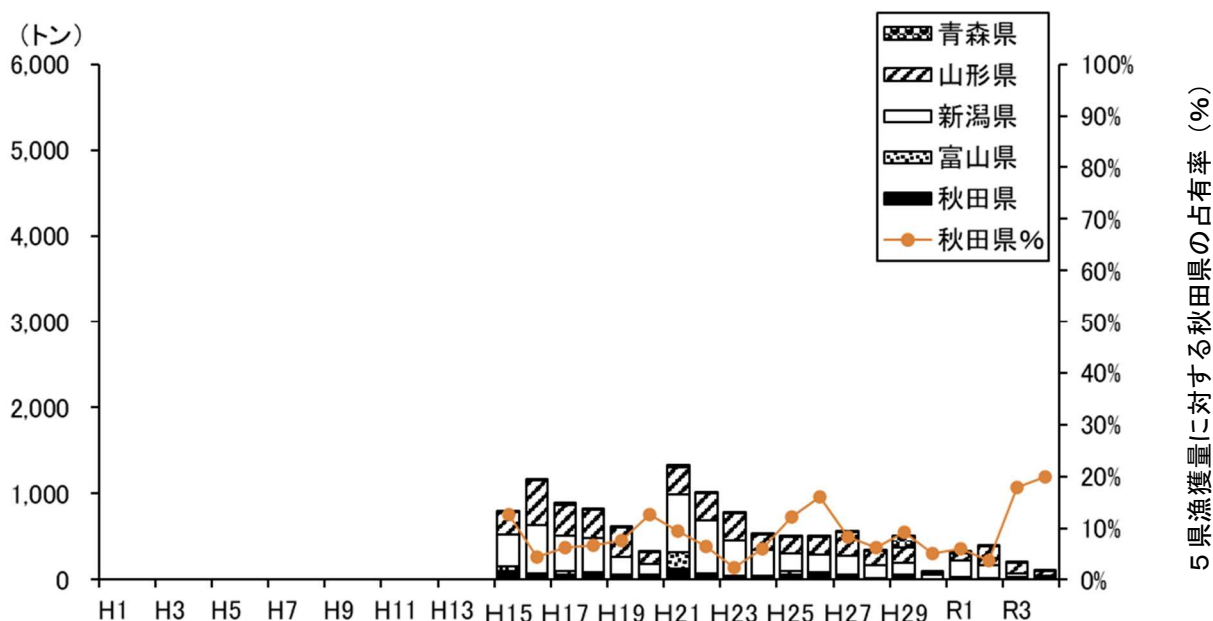


図3. 日本海北部5県における漁獲量(1~6月計)の推移

- ・各県聞き取りの値。

- 令和4年1~6月上半期の合計漁獲量(速報値)は、108トンで前年より93トン減少した。
- 県別では、青森県2トン(前年3トン)、山形県62トン(前年117トン)、新潟県20トン(前年42トン)、富山県2トン(前年3トン)、秋田県22トン(前年36トン)であった。

2. 体長組成の推移

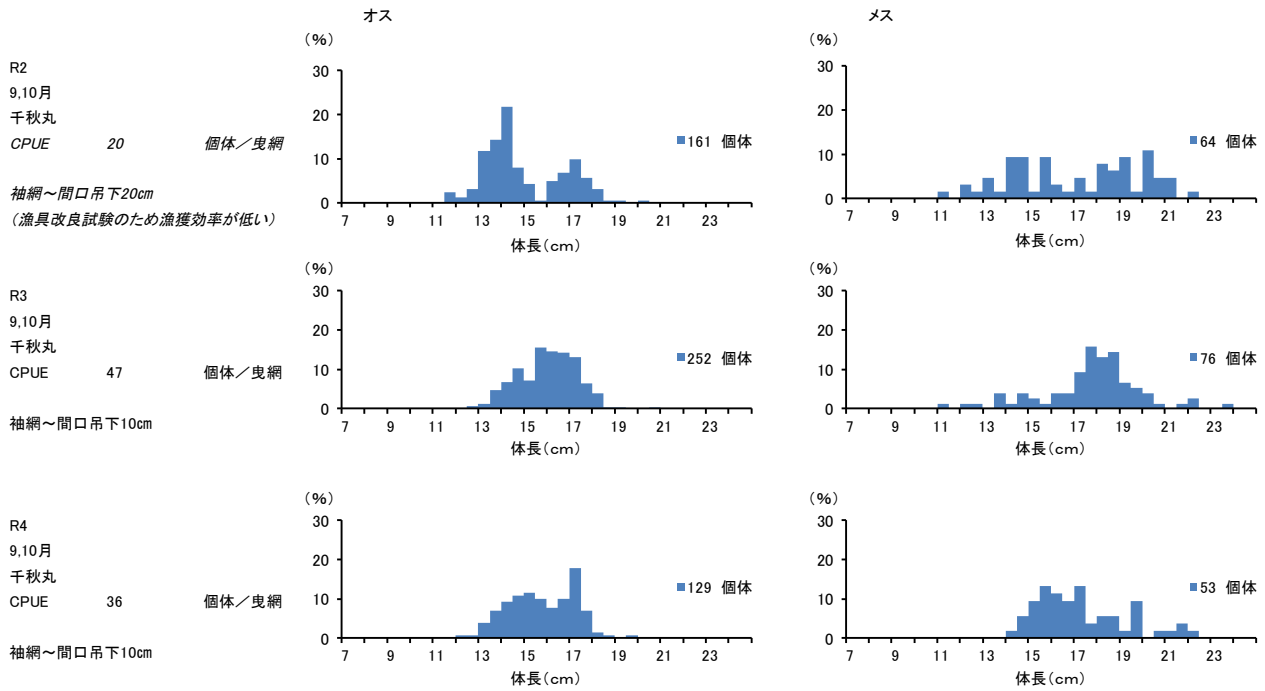


図4. 9、10月千秋丸かけ廻し網調査での漁獲物の体長組成

○ 令和4年漁期は、1歳魚（小サイズ）、2歳魚（中サイズ）を主体に、3歳魚（大サイズ）の混じった漁獲が推定される。

参考1. 10～12月頃の年齢ごとの体長の目安（cm）

	1歳	2歳	3歳	4歳
オス	14.0	16.0	18.0	20.0
メス	15.5	18.0	20.5	23.0

3. 千秋丸でのハタハタ採捕個体数

(1) 板びき網調査

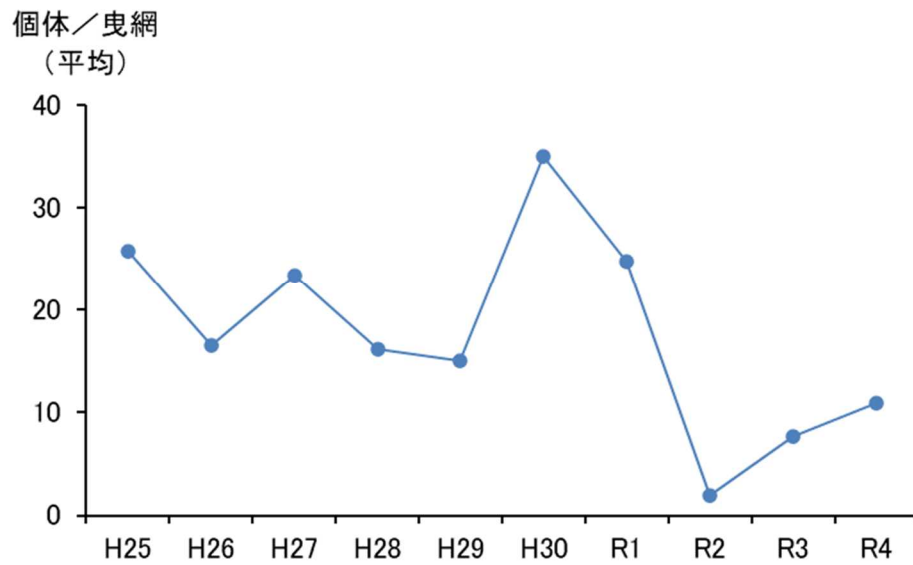


図5. 1歳魚以上（体長10cm以上）のハタハタ採捕個体数の推移

(2) かけ廻し網調査

表3. 水深200m以深でのハタハタ採捕網の比率

	曳網回数	ハタハタ 非入網回数	ハタハタ 非入網率
R2	9	2	22%
R3	15	3	20%
R4	20	6	30%

- 板びき網調査では、令和2年以降、曳網あたりの採捕個体数は低水準にある。
- ハタハタ狙いで操業している水深200m以深でのかけ廻し網調査では、令和4年には、ハタハタが全く採捕されない網が多い。

4. 漁獲努力量管理について

(1) 令和3年漁期の検証

- 令和3年漁期の漁獲努力量は、平成30年漁期から令和2年漁期の3年間の漁獲努力量の平均を基準とし、そこから1割程度削減という目標で設定され、その目標は達成された。

(2) 秋田県漁獲量の将来予測

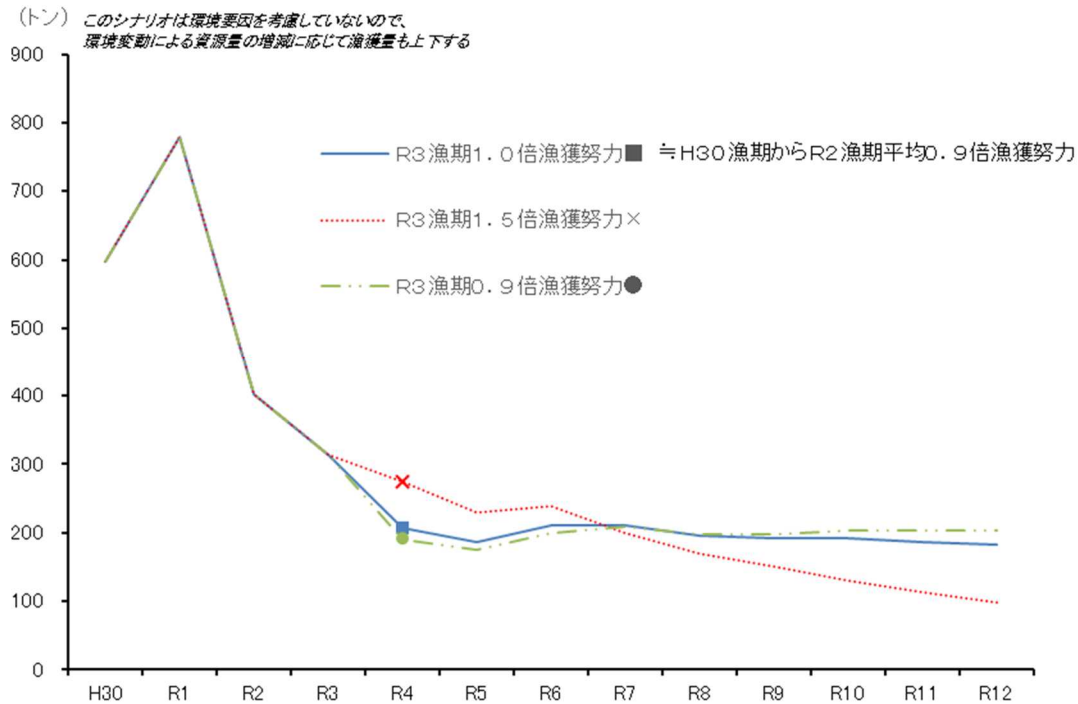


図6. 漁獲努力量（獲り方）の違いによる秋田県漁獲量の将来予測

- 令和3年漁期前に設定した漁獲努力量を基準に考えると、令和4年漁期の漁獲努力量が、令和3年漁期を上回る1.5倍（図6「×」）とした場合、漁獲量は減少すると推定されたが、令和3年漁期と同程度（同「■」）であれば、漁獲量は維持されると推定された。

令和4年漁期漁獲努力量

漁獲努力量管理による、将来予測の結果、令和4年漁期も、令和3年漁期同程度の漁獲努力量を設定することが適当と考える。

- ① さし網 水揚上限日数 12日～15日／経営体（地区、漁法ごとに設定）
- ② 定置網 水揚上限日数 12日～17日／経営体（地区、漁法ごとに設定）
- ③ 底びき網 水揚上限日数 22日／経営体（全県統一）

（これら内容は、第9期秋田県ハタハタ資源管理計画第3条により、別表1として定められる。）

5. 資源低水準期を乗り切るために

近年の漁獲低迷は、海洋環境の変化に伴う資源変動が主たる要因と考えられ、現状では、親魚を多く残すことが、産卵を介した次世代のハタハタの十分な増加につながるとは予測し難い。一方、1歳魚以上の獲り残しは、翌漁期以降に、さらに成長して漁獲されることが期待できる。

そこで、以下を考慮した操業を継続し、少ない資源を効率よく利用すべきと考える。

[操業コスト削減]

- ① 地区・漁法ごとに共同操業化を推進し、空ぶりを少なくし、燃料代や番屋経費、労力などを削減
- ・ 沖合では、千秋丸を含め、ICTを活用し、漁場情報を共有
 - ・ 沿岸では、モニタリング網を導入し、まとまった接岸がみられるまでの個人操業は控える
 - ・ 市場単位でまとまった漁獲が複数日続くなどにより、価格が下がれば、休漁などを検討

[収入維持]

- ② 漁獲したハタハタは適切に流通させる
- ・ 小型魚を含む全漁獲物を流通させる
 - ・ PRを充実させ、統一されたルールで直売などを実施
 - ・ 流通業者らと箱の容量などを検討

[資源管理]

- ③ 漁獲努力量管理
- ・ 定められた経営体ごとの水揚げ日数を上限とし遵守徹底
(漁場の偏りを想定して設定しているので、全地区で上限に近づける必要なし)
 - ・ 実働の経営体数が計画を下回る場合でも、操業日数を追加配分しない
 - ・ 網の目合を拡大(定置網8節、底びき網7節など)し、1歳魚(小サイズ)の漁獲を抑制
 - ・ 操業日誌の記録による漁獲努力の継続的な把握
 - ・ 直売(オンライン販売含む)なども含めた、漁獲物の全量報告の徹底
 - ・ 定置網とさし網の水揚げ上限日数の計画設定では、経営体ごとに漁協に水揚げされた日数をカウントしているため、地区ごとに「〇箱以上1日」などとは運用しない
- ④ 1月以降の底びき網のハタハタ狙いの抑制
- ・ 沖合では、狙い操業をできる優位性、1月以降漁獲分は翌9月以降の先獲りであることなどを考慮し、翌1月以降のハタハタ狙いは控える

[担い手育成・文化の伝承(県民への供給)]

- ⑤ 直売、寿司づくりなど地域に根差したイベントは(小規模でも)継続
- ⑥ (漁獲は少なくとも)ハタハタ漁業における後継者育成や高校生などの体験実習を実施

参考2. 水温の推移

今後の予報

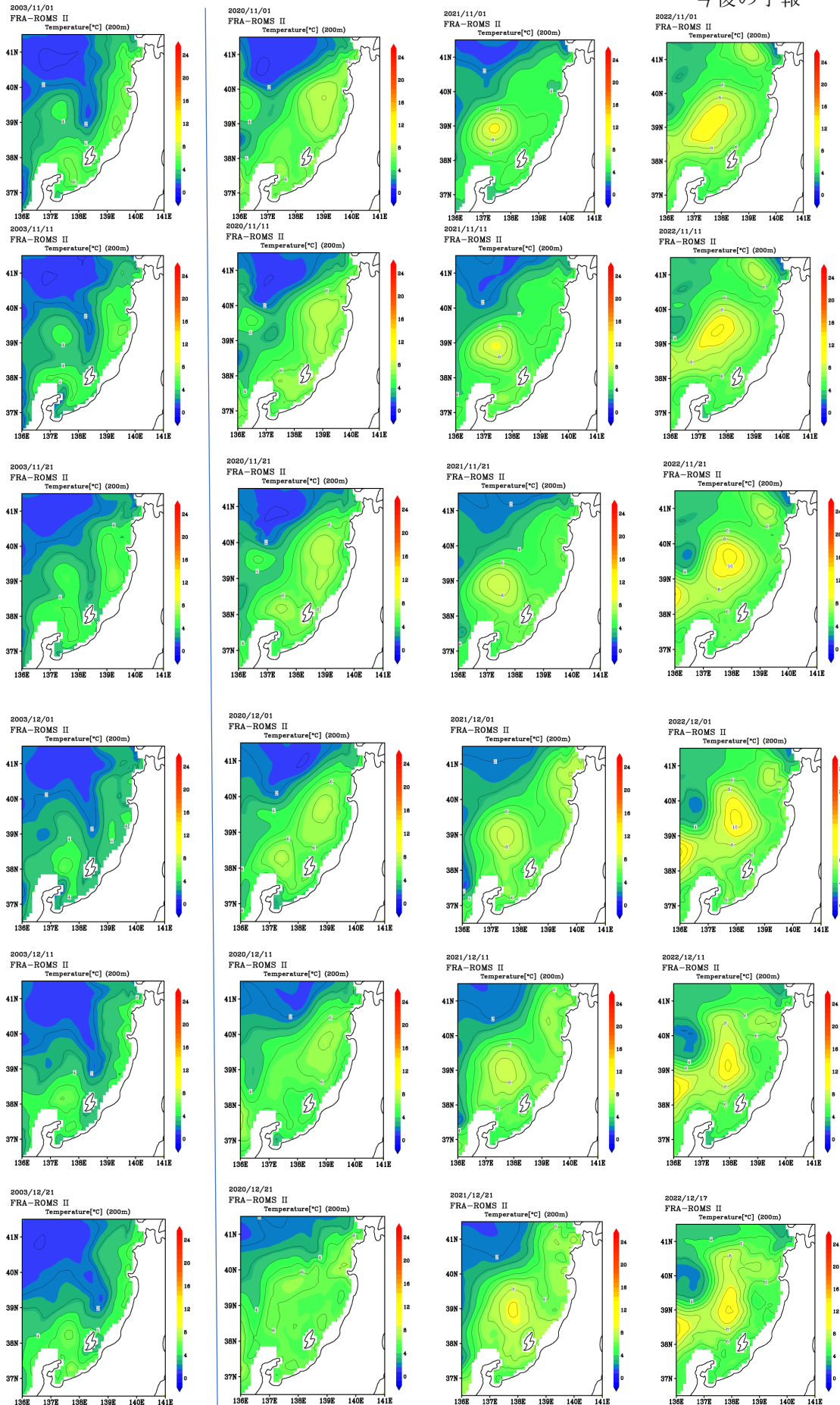


図7. 水深200m水温（改良版我が国周辺の海況予測システム <https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/>より）

参考3. 潮流の推移

今後の予報

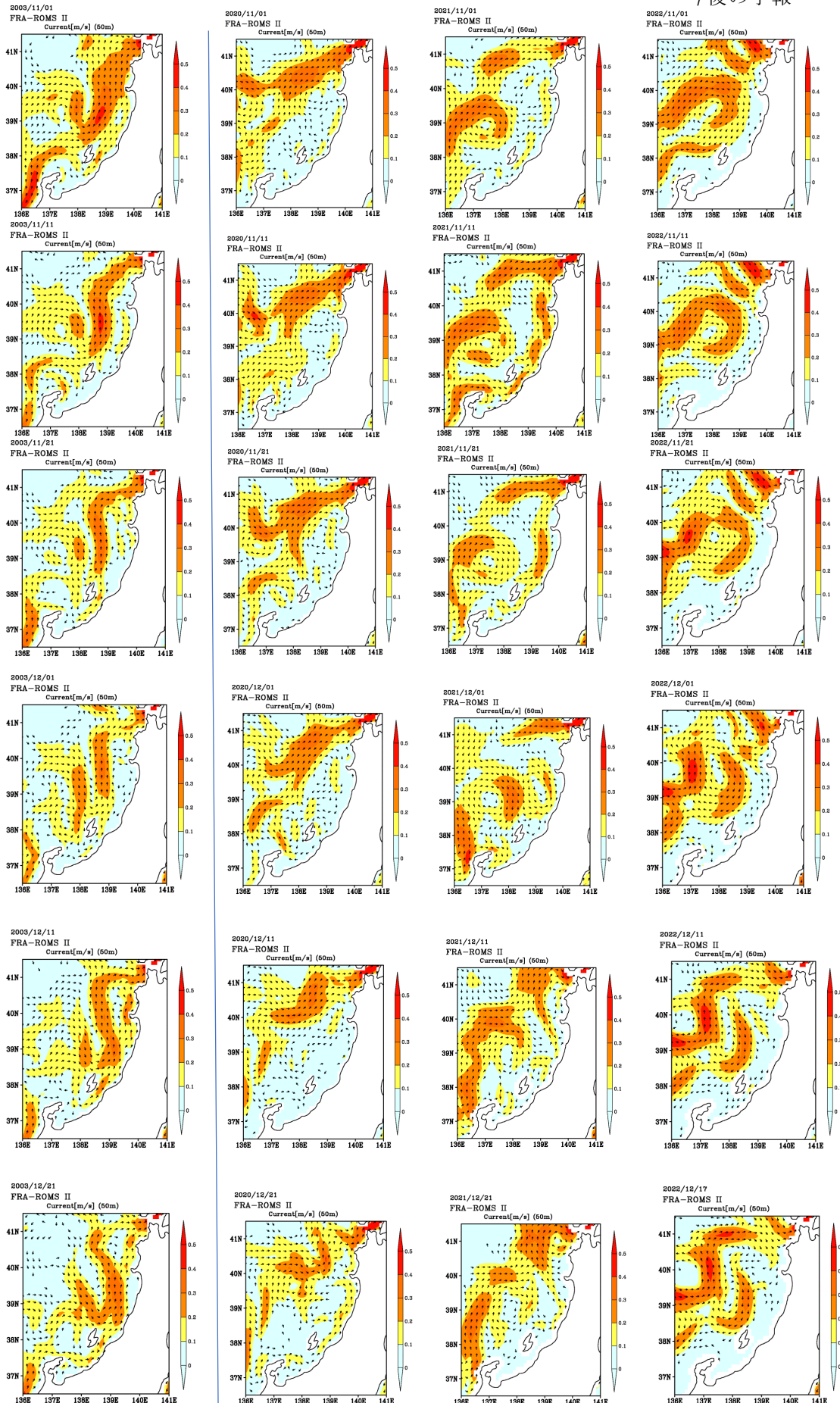


図8. 水深50m潮流（改良版我が国周辺の海況予測システム <https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/>より）